

経営比較分析表（令和3年度決算）

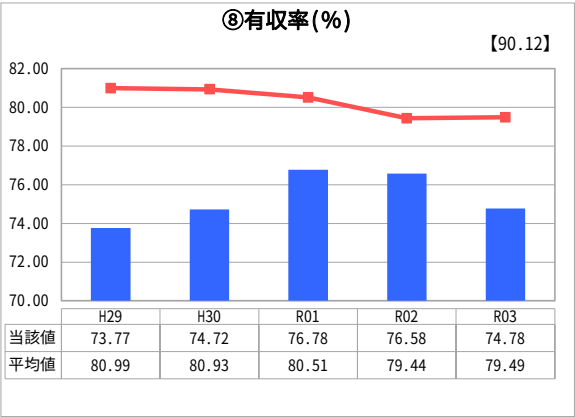
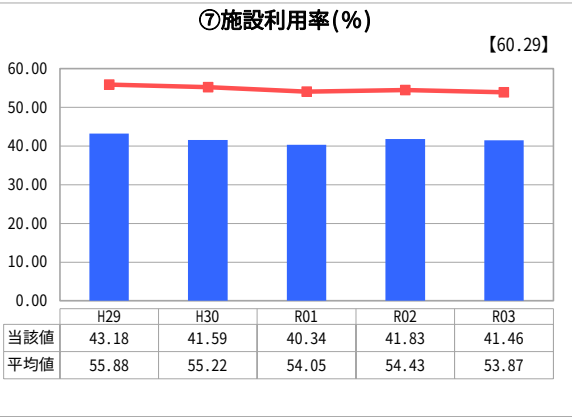
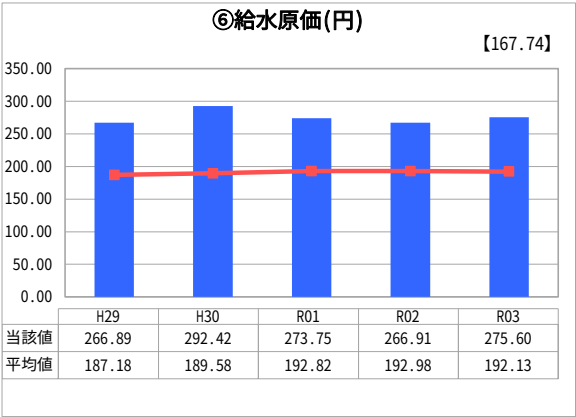
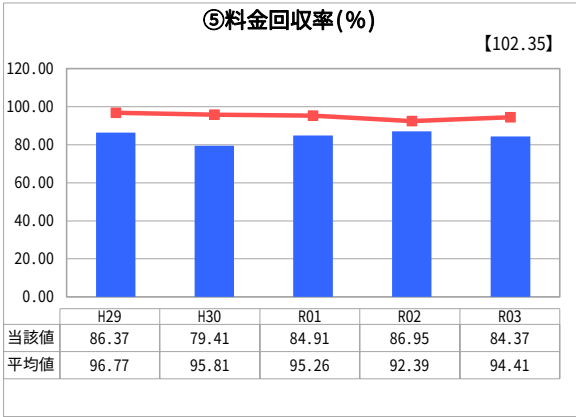
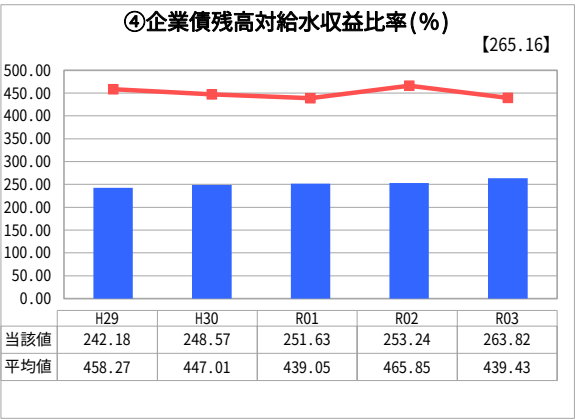
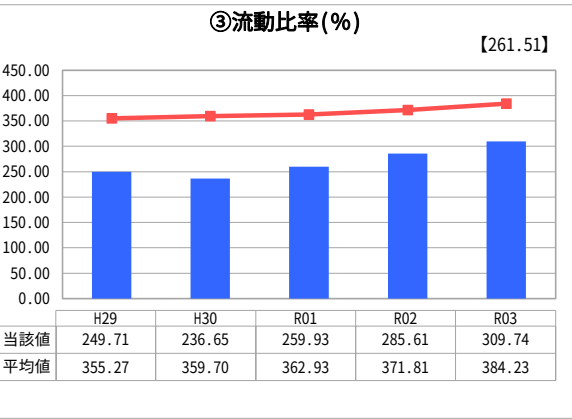
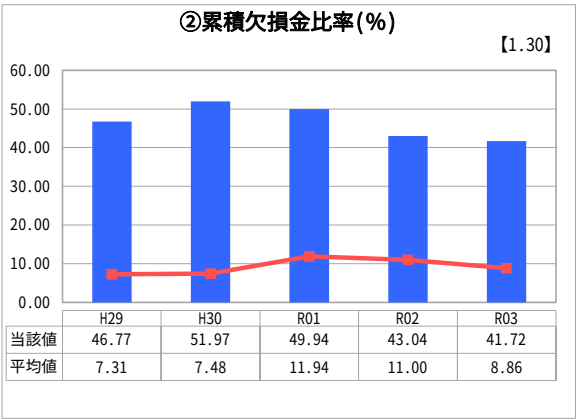
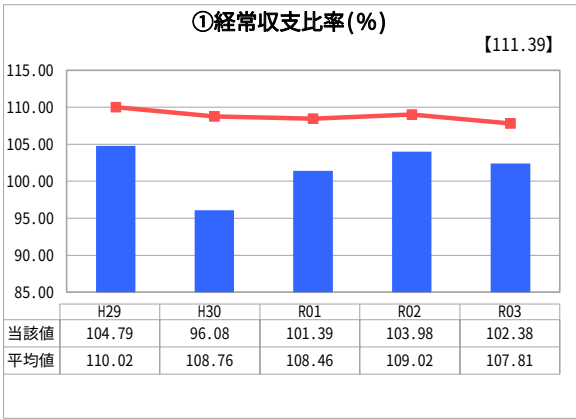
岡山県 勝央町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	63.13	99.84	4,510	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
10,981	54.05	203.16
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
10,935	44.09	248.02

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
□ 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①一般会計からの基準外繰入により、黒字決算となったが依然として類似団体平均を下回っている。維持管理費削減等に努めると共に料金回収率を改善することで今後も健全経営に向けて取り組む必要がある。

②類似団体平均を大幅に上回っている。料金改定等により営業収益増に取り組む。

③100%を上回っているが平均を下回っている。施設更新に係る起債借入が増加しているため増加傾向にある。

④更新事業により企業債が増加傾向にある一方で給水収益は使用料減による減少傾向がみられる。

⑤企業債利息減少により近年給水原価は微減傾向にあるが、100%を下回っており一般会計繰入金により収入不足分を当てている状況である。料金改定等により給水収益増に取り組む必要がある。

⑥類似団体平均を大きく上回っており、高額な受水費が大きな要因となっている。

⑦他団体平均と比較すると低い水準で推移している。余剰水量利用の検討が必要となってくる。

⑧老朽管更新工事等をおこなっているが依然として低い水準であるため、引き続き更新事業を進めていく。

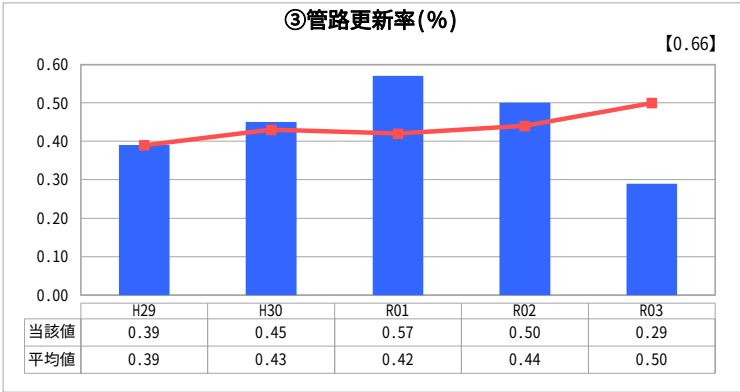
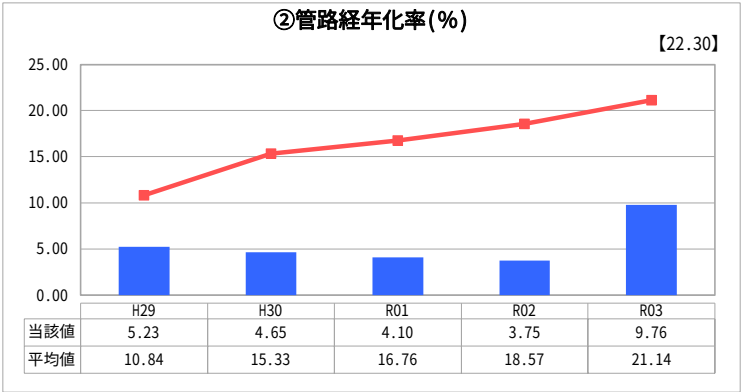
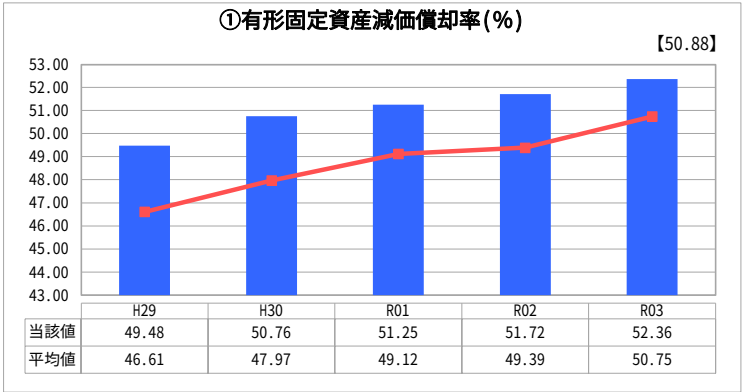
2. 老朽化の状況について

①耐用年数に近い資産が増加しているため、近年は増加傾向である。

②更新事業の推進により、耐用年数を超えた管路の割合は平均より低い値となっている。

③平均を下回っており、引き続き更新事業を推進していく必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

財政状況は、全国・類似団体と比較しても厳しい状況にある。年々給水収益が減少しているにも関わらず、原水費等の経常支出が減少しないことが大きな要因である。経常支出に対する経常収入不足を一般会計からの基準外繰入で当てているが欠損が継続的に生じている。

経費削減に努めることも大切であるが料金水準を含めた給水収益の確保も重要になる。

施設の老朽化も進んでおり、今後も更新費用増加傾向が見込まれるため、財源確保と費用の平準化を図り計画的に事業を進めなければならない。

今後、人口減少が進み経営が厳しくなることが予想されるが状況に応じた対策を実施し効率的な経営化を進めていく。